

公開大学における先行学習の評価と認識

クリスティン・ウィハク

トンプソンリバーズ大学
カナダ

はじめに

先行学習評価認定 (Prior Learning Assessment & Recognition: PLAR、あるいは国によって APEL、RPL 等) とは、中等教育を修了した成人学生が、仕事あるいは地域社会参加を通じて得た、フォーマルな教育制度外での学習を評価し、認定する行為である。最近の OECD レポート(Werquin 2010)においても、特に成人学習者の教育や訓練への動機付けになるという点で、先行学習評価が有する大きなメリットが強調されている。成人学生にとっては、PLAR を利用することにより、中等後教育の修了またはさらに上位の教育へと歩みを進める過程で、時間と費用を大幅に削減することができる (Aarts et al. 2003; Thomas, Collins, & Plett 2002)。世界規模の PLAR 拡大に向け活動を行なっている米国支援組織、成人・経験学習協議会 (Council for Adult and Experiential Learning: CAEL) (Evans, 2000; Thomas, 2000)では、成人向け高等教育機関を創出する上でカギとなる要素のひとつに、PLAR に関する政策および手法を挙げている。CAEL は、最近行われた大規模調査(Klein-Collins, 2010) のスポンサーを務めている。同調査では、成人学習者にとっての PLAR の利点として、PLAR を使用していない学生と比較して、成績が良い／より多くのコースをとっている／学位取得に向け学習持続性が高い／学位取得までの時間が短い、といった点が指摘されている。

遠隔教育を実施している公開教育機関にとって、効率的な PLAR サービスの提供を通じて、中等後教育を提供する機会を増やすことは重要な課題である (Joosten ten Brinke 2008; Peruniak & Powell 2007)。本稿では、「トンプソンリバーズ大学—オープン学習 (TRU—OL)」を通じて提供している PLAR について説明し、論じたい。まず、PLAR 支援サービスおよび評価手法について、質保証という観点から説明する。続いて、PLAR に取り組む学生の動機付け、PLAR 支援サービスの利用経験、並びに同経験のプロセスと成果に対する満足度に関する定性調査の結果を提示する。最後に、TRU-OL 先行学習国際研究センター (Prior Learning International Research Centre) で取り組んでいる PLAR に関する研究について論じる。

トンプソンリバーズ大学—オープン学習 (TRU—OL) における先行学習評価・認定 (PLAR)

トンプソンリバーズ大学—オープン学習 (TRU—OL) では、生涯学習の信念に沿って、多くの成人学習者が、フォーマルまたはノンフォーマルな教育 (すなわち、フォーマルな学校教育だけでなく、生活や職業経験) を通じて、訓練を重ねてスキルや知識を獲得していることを認識している。また、中等後教育の修業証書または学位を取得していない多くの成人が、自身の職業上のキャリアが脅かされている、または制限されていると感じるようになっており、プログラム修了に向けできるだけ早く進む必要に迫られている、という点も認識している。こうした必要性を満たすべく、TRU—OL では、そうした人々が過去の学習を土台として活用し、また学んできた事柄を教育プログラムの要件に充てる機会を提供している。

トンプソンリバーズ大学は、2005 年にブリティッシュ・コロンビア州の議会制定法により、旧ブリティッシュ・コロンビア・オープン・ユニバーシティ (BCOU) とユニバーシティ・カレッジ・オブ・カリブーを合併して設立された¹。トンプソンリバーズ大学設立法では、同大学の主要目的のひとつを「学生にオープン学習の教育単位バンク (credit bank) を

¹ カナダ憲法は中等後教育を含めて、教育の責任を州政府に課している。

提供すること」であると定めている (TRU Act, 3(1)(d) 2005)。ただし同法は、この用語について定義を行っていない。しかし、過去の文書を調査すると、この用語がどのようにして使われるようになったか、この概念が時間の経過と共にどのように変化してきたのかがわかる。単位バンクの当初の目的が、中等後教育へのアクセス拡大を提供することであったのは明らかである。1987年に記されたBCOU内部文書によれば、

「単位バンクとは、以下の2大目的を達成するための仕組みである。

- a) ノンフォーマルな学習により、または、通常、単位互換認定を受けていない組織において習得したスキルと知識を評価し、単位を記録すること。
- b) フォーマルな学習を通じて、および/または上記の a)を通じて取得した単位に基づき、資格認定証を授与すること。なおこの際、特定の教育機関を通じた最低量の課業を要件としない。」

1988年以前は、中等教育後の経歴において入学先の教育機関を変えた学生には、あるカレッジまたは大学で得た単位を別のカレッジまたは大学で認定してもらう簡便な方法が存在しなかった。BCOUの創設につながったのと同じ政府の政策「Access for All (すべての人に高等教育を)」の一環として、BC (ブリティッシュ・コロンビア州) 公立カレッジ/四年制大学編入制度 (BCCAT) が設けられた。BCCATの目的は、州内における自治教育機関の間での単位互換協定について調整を行うことであった。

BCCATはまず、中等後教育機関の代表者を集めて方針、手続きおよび単位互換協定について交渉を行う単位互換調整委員会 (Articulation Committee) の開発を促進することから始めた。次いで、認定される単位互換に関する明確な情報を学生と教育機関に提供する、年次「単位互換ガイド」の刊行を開始した。同ガイドは2001年にはオンライン化され (BCTransferGuide.ca)、教育機関の間で個々のコースをどのようにして振り替えるか、ある教育機関が発行したカレッジレベルの修了証書や卒業証書を土台に、どのように別の教育機関で大学学位を得るかの両方について、情報を掲載している。

単位互換を促進するために BCCAT が設けられたことにより、1987年に定められた教育単位バンクに関する上述の定義は、フォーマルな教育制度以外で取得された学習の評価と認証へとその焦点を移行することとなった。1990年代初頭、BC州政府は、州全域で先行学習評価・認定 (PLAR) の実施を開始した。これは、学習者がポートフォリオを用いて、コースやプログラムの学習成果基準に照らして自分がインフォーマルに獲得した学習を記録する一助となった (Blower 2000)。BCOUは同取り組みにおいて、ノンフォーマル学習 (認証を受けているフォーマルな教育体系外で行われるコースやワークショップ) に対する評価のみを指す語として「単位バンク」という用語を使用し始め、インフォーマル学習 (または経験学習) の評価については PLAR を通じて行われた。

1990年代中盤、BCOUは大手自動車メーカーのダイムラー＝クライスラー社と共同で、同社従業員に一般教養学士の学位取得機会を提供するための大規模プロジェクトを開始した。このプログラムは、PLARを通じて職場での個人の学習 (インフォーマル学習) の評価を行うことと、プログラムのレビュープロセスを通じて雇用主が提供する研修コースの評価を行うことの両方を特徴とするものであった。このレビュープロセスによって、研修に単位数 (学習の量とレベル) が割り当てられ、この単位数が「単位バンク」に記録された。従業員が条件を満たしてこれらコースの1つを修了し、それが雇用主によって確認されれば、その従業員は単位バンクから単位を引き出して、それを自分の学位プログラムに充当することができる。

ダイムラー＝クライスラー・プロジェクトの成功を受けて、BCOUは雇用主の提供する研修に対する評価を全国の組織に提供する、カナダ単位レビューサービス案を作成した。このサービスは2000年に、従量料金制で実施された。ただし当時は、教育へのアクセス拡大に向けた取り組みを続けようとする州政府の意欲も、新規サービスへのサポートも薄れつつあった。カナダ単位レビューサービスは2003年に別の機関に移管され、2004年には、連邦政

府が出資して遠隔教育のコースやプログラムを統合する取り組みであるキャンパス・カナダに移管された。しかし 2005 年には、トンプソンリバーズ大学設立法において単位バンクのコンセプトが一周して TRU-OL に戻り、フォーマル教育以外で獲得されたあらゆる形式の学習に対する評価を再び包含するようになったのである。

TRU-OL による PLAR の手順および支援

TRU-OLにはPLARを一手に扱うPLAR部門 (<http://www.tru.ca/distance/plar-ol.html>)があり、TRU-OLの何らかのプログラムに在籍し、PLARの単位を取得することを望む学生への協力を行っている。PLAR部門は、PLARが利用できることを学生に知らせるために多大な努力を払っている。なぜなら、こうした情報が入手可能であることが、学生の参加に不可欠であることが調査によって立証されているためである (Wihak 2007)。TRU-OLのウェブサイトにあるPLAR部門のページでは、学生に、PLARの利点、手順や費用についての情報に加え、PLARのポートフォリオの例や、PLAR部門職員やPLAR学生とのインタビューのビデオ映像を閲覧することができる。それ以外にも、TRU-OLのプログラムに登録するすべての新規学生に対して、PLARについての情報、またその潜在的メリットや出願方法に関する情報をeメールで送っている。

PLAR の単位申請プロセスは、互換単位のすべてがその学生の志望するプログラムの要件に照らして評価され、適用された上で、はじめてスタートする。PLAR の単位取得には、次の3つの選択肢がある。

- 単位バンク
- ポートフォリオを用いる評価
- コースのチャレンジ

単位バンク

PLARの単位バンク²形式では、TRU-OLがフォーマル教育体系以外で行われた教育に対して評価を行う。この教育がTRU-OLの基準を満たす場合、当大学の資格認定に充当するための事前承認を受ける。こうした教育を修了したことを示す証明文書をもっている学生は、単位バンクからこの単位を引き出し、TRU-OLのプログラムの要件を満たすための必要に応じてその単位を充当することができる。

フォーマル教育機関以外で得た教育を評価するプロセスは、ACE (米国教育協議会) の大学単位推薦サービス (Credit Recommendation Service) の手順に倣っている。2名または3名の科目内容の専門家、以下の点を検証し、そうした教育について包括的なレビューを行う。

- 学習内容とその成果
- 教員の資格
- 評価方法
- コースと教員の評価手続き
- 記録管理
- 学習へのサポートに利用可能な資源 (図書館、コンピュータ、実習室など)

内容の専門家 (content expert) は、たいていの場合TRUと関係のある教職員であるが、必要に応じて他の認証教育機関から採用される。これらの専門家は、当該教育に単位を与えるべきか否か、与えるべき場合にはどれだけの単位、どれだけのレベルの単位をどの学科で与え

² 「単位バンク」という言葉は主に振興を目的として、ノンフォーマル教育に対する評価に重点を置くようにその目的を定め直されたが、TRU設立法にある「オープン学習の教育単位バンク」という、より幅広い観念は、あらゆる種類のPLARと共に、寛大な互換単位の提供を含むと理解されている。

るべきかについて、PLARのディレクターに提言する責務を担う。学術的な管理を徹底するために、次いでPLARのディレクターが関係学科を担当する学術ディレクターと共に、その提言を再検討する。評価結果は、正式に提携協定となってPLAR部のウェブサイト、<http://www.tru.ca/distance/services/plar-ol/creditbank.html>に掲載される。

我々の単位バンクには、専門的能力開発のコースを提供している専門職団体をはじめ、認証を受けていないものの、ライセンス発行の観点から専門職規制団体によって認定されたプログラムを提供している教育機関、移民女性に訓練を行う組織、社内で管理者教育を提供する大手レストランチェーンまで、多岐にわたるパートナー組織が存在している。

ポートフォリオベースのPLAR

学生は、叙述的説明文と裏付けとなる書証により、自分が経験を通じて得た学習によってコースの学習成果基準を達成したことを示すポートフォリオを作成することで、特定のコースに認定申請をすることができる。学生の習得事項が特定のコースと直接的に同等ではないものの、それが中等後教育のレベルである場合には、当該学生は自分がプログラムの学習成果から得られる一連の重要な能力を達成したことを立証するポートフォリオをまとめることができる。

ポートフォリオを用いた PLAR 手順の第一歩は、学生が学習経歴書 (Knowledge Resume) を提出し、PLAR への適性について無料で事前評価を受けることである。学習経歴書は履歴書に似ているが、求職用履歴書に通例見られるよりも、ノンフォーマルなコースやワークショップ、およびボランティア経験や趣味についての情報を多く記載するものである。

PLAR 部門のスタッフ、または当該学生が応募するプログラム分野の内容専門家が、プログラムの要件に照らして、提出された学習経歴書に記載されている学生の経験を精査する。経験学習を獲得できた機会と、コースまたはプログラムの学習成果がぴったりと適合するかを見ることにより、当該学生が PLAR で当該プログラムに向けた単位を取得するに適した志願者であるか否かを評価するのである。一般的に、PLAR に適した志願者は、最低で 3-5 年間、できれば監督レベルでの職務経験を有する者、および／または社会奉仕や趣味の世界で目覚ましい成果を上げたことを示すことができる者である。PLAR 部門が PLAR への出願を認可することをその学生に通知した後、学生は PLAR の受講料を納付する。すると学生は、ポートフォリオの作成についての指示、成功したポートフォリオや成功しなかったポートフォリオの例、FAQ や、PLAR 部門チームへの質問を投稿するためのディスカッション・ボードが掲載されている同学部の学習管理システム (Blackboard) サイトにアクセスすることが認められる。

a. コースベースのポートフォリオ

コースベース PLAR ポートフォリオでは、学生はコースに合格するために、コースの詳細な学習成果基準について十分な知識をもっていることを立証しなければならない。一例として、ビジネス入門コースの詳細な学習成果を以下に挙げる。

「他の経営陣や作業に当たる従業員との交流を含めて、監督職(supervisor)が組織全体のヒエラルキーのどこに適合するか識別する」

学生の PLAR 用ポートフォリオでは、自らの習得事項を実証するために、次のような文章を提示することが可能である。

「中間管理職として過ごした約 1 年間を含めて、およそ 8 年間にわたり監督職を務めてきました。監督職は、マネジメントにおいて、他のレベルのマネジメントを監視しない唯一の職務レベルです。監督は、作業に当たる従業員だけを見る役割を担っています。組織のヒエラルキーの中では、経営陣の最初のレベルであり、一般的には中間管理職の誰かに報告を行います。私の経験では、監督は作業に当たる従業員にとっては組織の経営陣の擁護者であり、一方、中間管理職から上層経営陣にとっては作業に当たる従業員の擁護者である、という意味で、難しい役職です。」

学生には、PLAR のアドバイザーから提供される限定的な指導を得て、コースベースのポートフォリオを作成し、提出するために 12 週間が与えられる。通例は、コース担当の教職員が提出されたポートフォリオを評価し、規格化されたテンプレートを利用して報告書を作成し、それが当該学生の恒久的記録の一部になる。ポートフォリオが合格すれば学生の成績証明書に、PLAR を通じて条件を満たして修了したことを示す「S」の評点と共にコースの名称と番号が記載される。

b. コンピテンシーベースのポートフォリオ

コンピテンシーベースのポートフォリオの場合、学生は、学部の下位および/または上位レベルにおいて、所定の基準によって評価される「8 つの重要なコンピテンシー」を獲得している証拠を提示する。このコンピテンシーは、一般教養課程で期待される学習成果と、現代の職場において望まれる資質の双方を反映するように策定された。これらのコンピテンシーは、人文科学、ビジネス、一般教養、保健科学および科学の分野での TRU-OL の様々な資格認定に向けて、必修ではない選択単位を与えるために用いられる。（歴史などといった特定科目の分野での学科履修単位の取得申請を望む学生は、コースベースのポートフォリオを利用すると良い。）8 つの重要なコンピテンシーとは以下の通りである。

- コミュニケーション能力
- 情報組織化能力
- 問題解決/意思決定能力
- 基本的計算スキル
- 批判的思考力
- 知的成熟
- 独立した研究・学習スキル
- 応用知識・能力

重要なコンピテンシーと、下位レベルまたは上位レベルの単位の評価基準に関する詳細情報は、PLAR 部門の掲示板サイトにおいて志願者に提示されているので、志願者は正式に PLAR に出願して受講料を納付後、同サイトにアクセスすることができる。

ある学生が自分のコミュニケーション能力について記述した例を以下に示す。「項目 B、項目 J」等への言及は、この学生がポートフォリオの付属書として提出した書証を指している。

「金融に関する背景知識が乏しい、または金融に関する教育を受けていないことの多い顧客に対して、金融の複雑な用語や概念について語るすることができます。よく図を用いたり、顧客がよく知っている事柄を引き合いに出すなどして、要点を説明しています。金融上の概念を判りやすく説明するために使用している図の例は、同封の資産計画サンプル（証拠資料部分の 19-21 ページに記載の項目 B）をご覧ください。顧客と面談する時には、相手はその資金に関して何を優先し、何を目的にしているのかだけでなく、顧客の現状を知ることが重要です。「目的と懸念事項」のカードおよび PFR（証拠資料部分の 22-24 ページに記載の項目 B）を効果的に利用することで、顧客の理解を深め、彼らのために良い仕事をするのが可能になるのです。顧客に個人的な財務情報を提示するよう求めると共に、お金に関する個人的な価値観と目標を共有するよう説得するに当たっては、ある程度の神経の細やかさが求められます。この段階では、効果的なコミュニケーションがきわめて重要です。書面化した財務計画（証拠資料部分の 12-18 ページに記載の項目 B）を活用して、顧客の現状を分析し、顧客と自身の両方が後で見返すことができる方法で、アドバイスを伝えることができます。また、私はブリティッシュ・コロンビア州小児病院を支えるビクトリア・コミュニティのボランティア理事会理事の職務の一環として、主宰するイースターエッグ・ハント（復活祭の卵狩り）のプロモーションを行うためにメディア向けにスピーチを行う機会がありました。

ブリティッシュ・コロンビア州小児病院における自分の家族の経験を話すことによって、地元の資金調達理事会と病院のニーズについての意識向上を図る機会をもつこともできました。これについては、我々の行った復活祭行事に関するメディア報道で記録されています（証拠資料部分の 38-40 ページに記載の項目 J、K、L、および CD に入っている映像の抜粋）」

学生は、ポートフォリオの完成に 24 週間が与えられる。ポートフォリオは電子形式で提出することが奨励されているが、現時点ではまだ、追加料金でハードコピーのポートフォリオも受け付けている。最初に PLAR のディレクターがポートフォリオに遺漏がないかどうかを検査し、次に、関係する内容についての専門知識と PLAR のポートフォリオ評価の訓練経験の双方を有する 2 名の評価担当者にポートフォリオを送付する。

評価チームのメンバーは、1 人でポートフォリオの評価を行うことから始める。評価チームが予備的评价を完了すると、評価チームと PLAR の志願者が電話会議を行う時間を PLAR 部門が設定する。面接の目的は、ポートフォリオに記述されている学習についてさらに掘り下げて確認するためである。面接に先立って、評価チームのメンバーは学生に聞きたい質問について話し合い、精査する必要がある弱点分野を特定する。PLAR チームは学生に、各能力について簡単に説明し、提示された証拠について詳述することを求める。志願者の側には、追加的な準備は要求されない。

評価チームのメンバーは面接後に協議を行い、下位レベルおよび/または上位レベルの単位を与えるとすれば、どの程度与えるかについて、暫定的合意に達する。それからチームのメンバー 1 名が、標準テンプレートを用いてフォーマルな報告書を起草し、それを 2 人目のチームメンバーが見直してから PLAR 部門に回す。PLAR のディレクターが各報告書に目を通した上で、容認可能であれば、与えられる単位を学生と学生記録システムに伝える。コンピテンシーベースの PLAR を介して得た単位は、応用研究の単位と見なされ、学生の成績証明書には「S」（条件を満たした修了）という形で評点が示される。

コースのチャレンジ

コースのチャレンジの過程において、学生は、厳格な監督条件下で最終試験に相当する試験を修了する。ただし、これは TRU-OL のすべてのコースで設けられている制度ではない。コースの中には、ただ 1 度の総合試験による評価になじまない内容のものもあるためである。チャレンジ試験のほとんどは、現代語学の分野でのペーパーテストである。TRU-OL は、当大学で教えていない言語（韓国語、標準中国語、ハンガリー語など）で語学の試験を受ける機会を学生に提供している。チャレンジする言語が学生の第一言語である場合には、チャレンジ試験は上級レベルとしている。学生にはチャレンジ試験での評点を知らせるが、PLAR を通じて条件を満たして修了したことを意味する「S」という文字での評点が、試験結果として成績証明書に記載される。

PLAR における質保証

TRU-OL の PLAR 部門にとって、質保証（QA）が最重要課題である。PLAR に関する当大学の方針において要求しているのは、プロセスおよび手続きが、CAEL が定めた PLAR 基準と合致していることである（Fiedler, Marineau & Whittaker 2006）。いくつものアメリカの大学（米国中部教育認証協会への加盟大学など）やカナダの大学（アサバスカ大学、ブランドン大学、ライアソン大学、プリンス・エドワード・アイランド大学など）では、PLAR の QA の基本として、CAEL の基準が用いられている。同基準は以下の通りである。

1. 単位またはその等価物は、経験に対してではなく、学習に対してのみ与える。
2. 評価は、合意・公表されている容認可能な学習レベルの標準と判断基準に基づく。
3. 評価は、学習と切り離されたものではなく、学習に不可欠な一部として扱い、学習プロセスの理解を基本とする。

4. 単位授与とコンピテンスレベルの判定は、主題専門家および学術専門家または資格認定の適切な専門家によって行う。
5. 単位またはその他の資格認定は、それが与えられる、または受け入れられる状況に適したものとする。
6. 与えられるのが単位である場合には、成績証明書への記入に際して、どのような学習が認定されたのかを記述し、同様の学習に対して 2 度単位を与えることを避けるために、モニタリングを行う。
7. 評価に適用される方針、手続きと判断基準は、異議申し立ての規定を含め、評価プロセスの全関係者に全面的に開示し、目立つように提示する。
8. 評価のために課される料金は、評価過程で行われる業務量を基準に定めるものとし、与えられる単位の量によって決定してはならない。
9. 学習の評価に関わる全職員が、自らの遂行する職務のために適切な訓練と継続的な専門的能力の開発を進め、またこれを受講する。
10. 対処すべきニーズ、達成すべき目的、評価に関する最新技術の変化を反映させるため、必要に応じて、評価プログラムの定期的なモニタリング、見直し、評価および改訂を行う。」 (CAEL, 2011)

PLAR 部門は、CAEL の基準を満たすことに加えて、カナダの中等後教育機関のために最近策定された質保証ガイドラインも堅守している (Amichand et. al. 2007; Van Kleef et. al. 2007)。同ガイドラインは CAEL の基準を拡充したもので、PLAR プログラムの実際の実施に関してより詳細な提案を示しており、基本方針 (Foundational Policies) と評価プロセスの管理 (Management of the Assessment Process) という 2 つの領域を取り上げている。

基本方針

- CAEL の原則またはその他の QA 原則を反映させる。
- 定期的なプログラムの見直し、外部者によるピアレビュー、および学生からのフィードバックを含めた既存の QA メカニズムに PLAR を組み込む。
- PLAR のために固有の QA メカニズムを開発する。
- PLAR と教育計画とを連動させる。
- 学習者と評価者に PLAR に関する支援サービスを提供する。
- 明確かつ透明性のある PLAR の定義と QA プロセスを有し、それを学習者および内部/外部の利害関係者に明確に伝達する。
- QA のレビューに PLAR の記録管理システムを含める。

評価プロセスの管理

- 学習者、評価者に利用可能な明確な学習基準 (成果) が必要。
- 評価者が先行学習について判断するための基準が必要 (妥当性、幅、深度、流通性、充足性、信頼性)。
- 評価者が適切な評価ツールを選ぶための判断基準が必要。
- 評価プロセスの信頼性、有効性の確保が必要。

TRU-OL における学生の PLAR 経験

Warkentin (2009) は、TRU-OL における PLAR プロセスについて、学生視点からの評価を実施した。質的事例研究として実施されたこの調査で、コースベースのポートフォリオ、またはコンピテンスベースのポートフォリオ形式の PLAR に参加した 6 名の学生に関する報告

が行われた。これら学生に対して与えられたPLARの単位には、9単位から36単位までの幅があった³。

学生が PLAR に取り組む主な動機は、「主に実利的かつ経済的な性質の理由」であり (Warkentin 2009, p. 5)、キャリアを進める目的で、できる限り迅速に資格を取得するためである。学生は、コースへの登録料と授業料を払うことによってではなく PLAR を通じて単位を取得することによって、結果的に費用が節約できることを高く評価していた。ある学生は、「私は 500 ドルを払って、結果的にはおそらく 12,000 ドルから 15,000 ドルの見返りを得ました」とコメントしている (p. 48)。

コンピテンシーベースのポートフォリオを完了した学生には、これが過去の成果を振り返る機会となり、自信を深められた、という予期せぬ利点があった。ある参加者が述べたように、「PLAR の優れた点のひとつは、立ち止まり、一息ついて、自分の立ち位置と、どうやってそこまで歩んできたか、振り返ってみよう求められることです。」 (Warkentin 2009, p. 47)。別の学生は、ポートフォリオを子どもや孫の代まで残す、自身の遺産とした。

こうした、自分の歩みを振り返ることで得られる利点については、コースベースの PLAR を完了した学生のコメントではそれ程目立っていなかった。この点について、Warkentin (2009) は「出願者は、自分が予め定められたガイドライン (詳細な質問、コースの概略や目的) に係るスキルと知識を証明しなければならず、内省を行う機会がそれほどない、というのがひとつの理由だろう...」 (p. 47) と推測している。

Warkentin (2008) は、コースベースの PLAR のポートフォリオで学生がプラスの経験を得るためには、明確な学習成果と、これらガイドラインに照らして習得事項を立証する方法に関する明確な指針を示すことが不可欠であると強調した。作成中のポートフォリオについてフィードバックを与えることのできる PLAR アドバイザーから指導を得ることも、価値があるものと見られた。コースベースの PLAR に参加した学生の間では、PLAR 用ポートフォリオの作成に必要な作業の量が、取得する単位の量から考えて妥当と思われる以上に多かったという意見もあった。Warkentin が指摘したように、「実地の経験から得られる学習の問題点は、『大学レベルの品質 (university-quality)』 (p. 37) とされるカテゴリーや判断基準にぴったりとは収まらない場合があることである」。学生は、経験に基づく学習を適切な概念的用語で表現するに難渋する場合がある。

PLAR を通じて取得した単位が雇用主やその他の中等後教育機関によって受け入れられていることは、TRU-OL における PLAR のプロセスが成功していることの二次的証拠となっている。TRU-OL は学生の書類を返却する過程で、2002 年から 2007 年にかけて単位を取得した学生との e メールを通じて PLAR の単位に対する容認の問題を調査した。質問に回答した学生の大多数は、PLAR の単位で取得した学位が、雇用主に問題なく受け入れられたと報告した。さらに数名の学生は、これらの学位が受け入れられて MBA プログラムに入学できたことを報告した。カナダのある大学は PLAR の単位を受け入れたが、2 つ目の大学は PLAR の単位認定を拒否したと報告した学生が 1 人だけいた。これらの調査結果は、PLAR の手法の方向性が信頼できるものであることを示している。

先行学習国際研究センター

TRU-OL では、PLAR 分野における理論的根拠や慣行に関する学術研究を促進し、調整し、普及する必要があるとの認識から、先行学習国際研究センター (PLIRC) <http://www.tru.ca/distance/plirc.html> を設立した。同センターの使命は、先行学習とその評価、認定や妥当性確認に関する理論、方針、および慣行に関する画期的かつ刺激的な研究を促進することである。PLIRC 初の重要な業績は、2011 年に世界中の PLAR 研究をまとめて編集した論文集『Researching the Recognition of Prior Learning (先行学習認定の研究)』 (Harris,

³ カナダで単位が与えられるコースのほとんどは、1 コースが 3 単位相当で、4 年間で学士の学位を取得して卒業するには 120 単位が必要である。

Brieir & Wihak)の刊行であった。この本では、より学術的かつ精緻な研究を呼び掛け、PLAR分野における国際的な研究アジェンダも提示した。

PLIRC では、オリジナル研究にも着手している。あるプロジェクトには、ミャンマーの私立の教員養成大学の学生が関わっている。異文化間コミュニケーションを理論的レンズとして用いているこの研究は、異なる文化的文脈を背景にもつ個人が、北米的能力を基本とする PLAR のポートフォリオの開発をどのように経験するか探っている。研究の第一段階は完了して、ミャンマー人学生全員が、TRU-OL の要件に従って作成され、評価されたコンピテンシーベースの PLAR のポートフォリオに対して、下位レベルの単位を上限まで取得することに成功した。第二段階には、観察データと面接データの分析などと併せて、ポートフォリオそのものの分析を行い、学生が異なる文化背景の評価者に対して自分の習得事項を表現するために用いたプロセスと文体を解明する。

2 目目のプロジェクトには、遠隔教育で PLAR を実施している教育機関が、捏造や盗用などの学問上の不正行為に対して、どのような防護策をとっているかに関する国際調査が含まれている。このアイデアは、Warkentin (2009) の研究における学生のコメントから生まれた。同研究への参加者数名が、コンピテンシーベースのポートフォリオにおける面接プロセスは、ポートフォリオで主張している習得事項が本当であることを証明するためのものだ、という認識を口にした。調査では、遠隔教育の環境で PLAR に関して、本当であることを証明するために、面接以外にどのような方法が用いられているか、またその相対的な利点と欠点についての研究を行う。

計画段階にある 3 目目のプロジェクトは、インストラクショナルデザインの分野から採用した手法を用いて、PLAR 用ポートフォリオの作成に含まれる課題の認知的複雑性を分析しようとするものである。

最後に、我々はオープン教育リソースを用いた自己学習で得た習得事項を評価するために、PLAR プロセスをどう利用できるかについての調査を始めている。TRU は、世界中のすべての学生に無料の学習機会を提供することを目指す UNESCO の取り組み、「オープン教育リソース基金」の要となる教育機関のひとつである。MIT のオープンコースウェア、カーン・アカデミーやセイラー財団などを発信源として、遠隔学習により中等教育後学習を得る機会がますます得られるようになって一方、現在は、学習者が自己学習に対して認証を得る手段が不足している。PLAR は、こうした認証を与えられるための一手段と成り得るものであり、これは実に素晴らしい可能性である。

結論

単位バンクという考え方が BCOU で初めて浮上した 1987 年から、この概念は多大な展開を経てきた。「オープン教育の単位バンク」という概念を TRU の設立法に正式に記したことが、それを力強く実施する PLAR 部門の創設につながったのである。PLAR の 3 大形式（単位バンク、ポートフォリオとチャレンジ試験）を通じてますます多くの学生が、フォーマルな教育の場以外で獲得した学習に単位認定を受ける恩恵を得るようになってきている。PLAR は学習者としての学生の自信を高め、教育課程を修了するために必要な時間と費用の節約を支援している。TRU はこうした機会を学生に提供しつつ、広く認められている質保証の原則とプロセスに従って、PLAR の評価プロセスの学術的品位を確保している。PLAR を通じて単位を取得する機会を学生に提供するに当たり、TRU は世界中のオープン教育機関界に浸透している教育へのアクセス向上の精神を忠実に守っている。

参考文献

- Aarts, S., Blower, D., Burke, R., Conlin, E., Lamarre, G., McCrossan, W., et al. (2003). *Feedback from learners: A second Cross-Canada study of prior learning assessment and recognition*. Toronto: Cross-Canada Partnership on PLAR.
- Amichand, S., Ireland, M., Orynik, K., Potter, J. & Van Kleef, J. (2007). *Quality assurance in*

- PLAR. A guide for institutions.* Ottawa: Canadian Council on Learning.
- Blower, D. (2000). *Canada: The story of Prior Learning Assessment and Recognition.* In N. Evans (Ed.) *Experiential learning around the world*, pp. 83-102. London: Jessica Kingsley.
- CAEL (2011). *Follow the Ten Standards for Assessing Learning.* Retrieved Dec. 23, 2011 from <http://cael.org/Whom-We-Serve/Colleges-and-Universities/Prior-Learning-Assessment-Services>
- Fiedler, M., Marienau, C. & Whitaker, U. (2006). *Assessing learning: Standards, principles & procedures (2nd ed).* Chicago: Council for Adult & Experiential Learning.
- Harris, J., Breier, M. & Wihak, C. (Eds.). (2011). *Researching the recognition of prior learning.* Leicester, UK: The National Institute of Adult and Community Education (NIACE).
- Joosten ten Brinke, D. (2008). *Assessment of Prior Learning.* Unpublished doctoral dissertation, Open University of the Netherlands.
- Klein-Collins, R. (2010). *Fueling the race to postsecondary success: A 48-institution study of Prior Learning Assessment and adult student outcomes.* Chicago: Council for Adult and Experiential Learning.
- Peruniak, G. & Powell, R. (2007). Back eddies of learning in the Recognition of Prior Learning: A case study. *Canadian Journal of University Continuing Education*, 33(1), 83-106.
- Thomas, A. (2000). Prior Learning Assessment: The quiet revolution. In A. Wilson and E. Hayes (Eds.), *Handbook of adult and continuing education* (pp. 508-522). San Francisco: Jossey-Bass.
- Thomas, A., Collins, M., & Plett, L. (2002). *Dimensions of the experience of prior learning assessment & recognition* (NALL working paper #52). Toronto: OISE.
- Van Kleef, J., Amichand, S., Carkner, M., Ireland, M., Orynk, K., & Potter, J. (2007). *Quality Assurance in PLAR. Issues and Strategies for Post-secondary Institutions.* Ottawa: Canadian Council on Learning.
- Werquin, P. (2010). *Recognising non-formal and informal learning: Outcomes, policies and practices.* Paris: OECD.
- Warkentin, L. (2009). A case study evaluation of the PLAR process from the perspective of students. Unpublished MEd report, St. Francis Xavier University.
- Wihak, C. (2007). Prior Learning Assessment & Recognition in Canadian Universities: View from the Web. *Canadian Journal of Higher Education*, 37, 95-112